

## 第2節—— 豊かな人生を支える福祉社会の実現

一人ひとりの市民が、その生涯を通してそれぞれの生活に合わせた成長発達ができ、いつでも心のほりをもった豊かな人生を送れるよう、保健・医療・福祉の機会を拡充していきます。

また、思いやりのある福祉が充実し地域の活力を維持し増進できる地域社会をめざし、互いに支え合って生きることができる福祉社会を実現します。

### 松戸市の良さ・暮らしやすさ (あなたの想いを聴くインタビュー〈市民編〉より) 豊かな人生を支える福祉社会の実現

医療環境が  
整っている

13人

千葉西病院、新東京病院、市立病院など進んだ医療機関がある。病院がたくさんあり、家の近くにあって便利。総合病院が徒歩圏内にある。

福祉が  
充実している

8人

福祉、医療に力を入れていて、充実しておりすばらしい。暮らしにくさがある時に、相談できる窓口がたくさんある。松戸市社会福祉協議会からの情報も参考になる。

子育てに  
適した環境

6人

ファミリーサポートセンターや子どもフェスティバルなど、様々な団体が子育てに関わっていて、病院、保育所、学校が近くにあり、子育てしやすい。

### 松戸市の将来イメージ (あなたの想いを聴くインタビュー〈市民編〉より) 豊かな人生を支える福祉社会の実現

高齢者が  
安心して  
暮らせる街

28人

高齢者が1人で出かけられ、生きがいをもって暮らせる街になっている。町会活動やボランティア活動等に参加して、生きがいを感じるようになる。高齢者が最期まで松戸(自宅)で住み続けられる公的支援があり安心して暮らせる。高齢者になっても住んでいたい場所であり続ける。

子育て  
しやすい街

18人

若い世代が安心して子育てできる。駅周辺に託児所が整備されている。みんなで子育てができるまちになっている。子ども達が安心して、学習したり、遊んだり、帰宅できる場が整備されている。病後児保育に手厚いとかの利点があり、女性同士で情報がすぐに伝わり、移り住む人が増える。

医療機関が  
充実した街

17人

小さい子供が安心して住める医療環境が整う。大きい病院施設等の医療機関が充実した先進医療の街となっている。死ぬまで安心していられる充実した施設がある。

# 1 健康に暮らすことができるようにします

## 現況と課題

### ●心身の健康づくりと生きがいのある暮らし

生涯を通して、その人らしい社会参加をすることで、生きがいを持つことは重要です。市民意識調査によると、「生きがい感を持っている人の割合」は、平成13年度80.3%、平成21年度79.0%と比較的高い割合を維持しています。今後も、心身ともに健康を維持することは、生きがい感の向上にとって大切です。これからは、高齢化がますます進むことから、高齢者がスポーツや趣味の活動、地域活動を通して生きがい感をもてるよう支援するとともに、いつまでも働き続けられるよう、雇用就労環境の整備も重要な課題です。

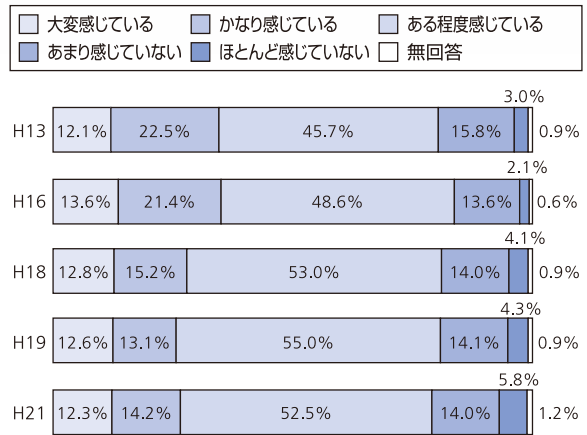
障害のある人にとっての就労は、自分を肯定し社会の中で自信を持って生きてゆくことにつながります。また、途中で障害を持った人にとっては、働くことで健康を取り戻し、自信と希望を回復するという心身のリハビリテーションにつながります。

### ●病気の予防・早期発見

生涯を通して、その持てる能力を発揮し豊かな人生を送るために、その前提となるのは健康です。市民意識調査によると、「本人が健康であると思う人の割合」は、平成13年度66.4%、平成21年度65.9%でした。まず、自分の健康を自分で守り、つくる努力をすることが重要な課題です。

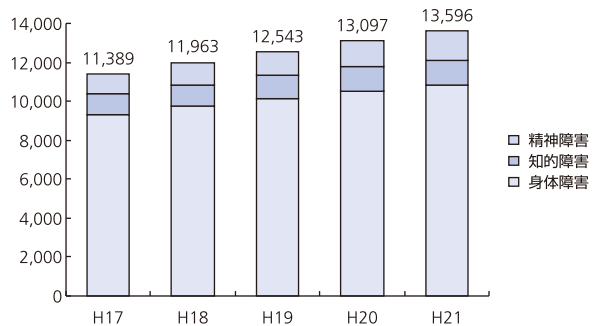
なお、高齢化の進展による医療費の増大などの問題からも、重点的に取り組むべき疾病として、国は四疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)を指定するとともに、うつ病や自殺対策にも取り組んでおり、その疾病予防等の重要性は、特に高まっています。

図表22-1 生きがい感を持っている人の割合



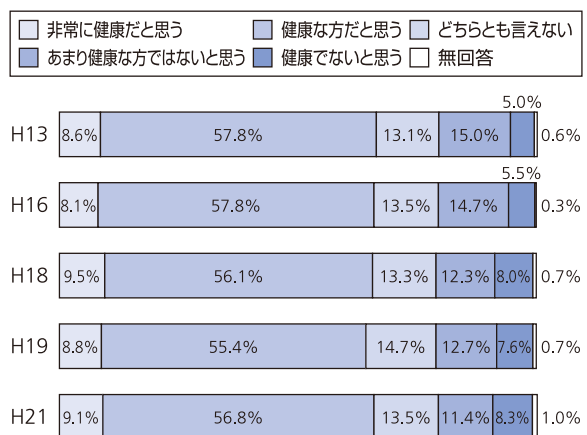
出典：市民意識調査

図表22-2 障害者手帳所持者の推移



出典：松戸市政の概要

図表22-3 本人が健康であると思う人の割合



出典：市民意識調査

### ●地域医療体制の充実

本市には、平成20年10月現在で、東葛北部二次保健医療圏<sup>\*18</sup>の中核医療機関である国保松戸市立病院を始めとして20の病院があり、一般診療所と歯科診療所を含めると547の施設があります。そのような中で、限りある医療資源を活用し、多様化する医療ニーズに対応するためには、地域の医療機関が役割分担し、相互連携を強化し、地域医療を守っていく必要があります。

また、市民が必要な時に必要な医療を適切に受けられるようにするためには、市民も医療機関の役割を理解し、身近なところに日常的な保健・医療サービスを受けることができる「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持つことが大切です。

### ●受療環境

我が国は、平均寿命だけでなく、健康寿命(自立して健康に生活できる年齢)も世界で最も長い最高水準の健康国になりました。一方、出生数が減ってきたこともあり、人口に占める高齢者の割合がかつてないほどに高まっています。こうした中、高齢者は医療サービスを利用する割合が高いため、医療費が年々増大し、医療保険事業の運営が困難になっています。

特に、市町村が運営する国民健康保険の加入者は、退職者や失業者等も含め、他の被用者保険制度の対象とならない人すべてを対象としているため、運営が厳しい状況にあります。そのため、本市を含む多くの市町村が一般会計から繰出しを行い、保険料の上昇を抑えて国民健康保険事業を運営しています。



夜間小児急病センター



中央保健福祉センター

## 松戸市の良さ・強み

- 三次救急医療や小児医療などの政策的医療を提供する国保松戸市立病院があります。
- 松戸市、松戸市医師会、松戸市薬剤師会、市立病院が連携して、夜間小児急病センターを運営しています。
- 市内に保健福祉センターが3箇所あります。

## めざしたい将来像

自らの健康に関心を持ち、社会参加することを通して、一人ひとりが目的を持った生きがいのある暮らしを生み出します。

## めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
生きがい感を持っている人の割合	80.3%	80.7%	79.0%	<b>80%</b>
本人が健康であると思う人の割合	66.4%	64.3%	65.9%	<b>70%</b>
健康づくりに関する講座やイベントへの参加者数	—	—	1,044人	<b>1,400人</b>
ホームドクター（かかりつけ医）を持つ人の割合	—	—	56.5%	<b>65%</b>
多様な世代と交流する機会のある人の割合	—	—	5.6%	<b>10%</b>

## 市民と行政それぞれの役割

### ●市民の役割

- 生きていくなかで、自分がどう生き、どう老い、どう死ぬかを意識できるようにします。
- 市民一人ひとりが自分自身の健康を守るのは自分だということを自覚するようにします。
- 公園など身近な場所を活用して、一人ひとりが自分にあった健康づくりを行うようにします。
- 地域で生活していく中で助け合えるグループづくりと話し合える場づくりを行うようにします。
- 運動などの健康づくりを継続できるように、それぞれが参加しやすいグループなどをつくるようにします。

### ●行政の役割

- 健康づくりの先にある老いや死をも見つめて、市民とともに健康とは何かを考え続けます。
- 全てのライフステージで市民一人ひとりが社会参加しやすいように施策を検討するようにします。
- 市民が交流できる場やネットワークについて、その活動内容も含めて情報提供するようにします。

## 施策の展開方向

### ①生きがいを持ちます

「シニア交流センター」や「老人福祉センター」では、高齢者が、住みなれた地域や家庭において自己の個性や能力を最大限に発揮し、生きがいを持って生涯を過ごすことができるように、様々な高齢者の状況に合わせた支援を充実させていきます。

地域の高齢者の自主組織である「老人クラブ」を地域福祉活動の担い手として、会員の方々にとって魅力ある活動として発展できるよう支援していきます。

高齢者の経験や技能を生かした就労を援助するため、「社団法人松戸市シルバー人材センター」を支援します。

障害のある人が、就労の場で、個々の状況にあわせて働くことができるような援助を行うとともに、文化・芸術活動やスポーツ活動などの社会参加の機会の充実を図ります。

### ②病気を予防し、早期に発見します

「自らの健康は自らつくる」ことを基本に、自主的な健康活動を支援するため、健康づくりのための教室や講話などを充実させていきます。

長年にわたる生活習慣に起因する生活習慣病をはじめ、がん、女性特有の疾病など各種健康診査サービスの充実を図り、受診勧奨を行います。

市民一人ひとりの気づきと見守りで自殺を防げるように、心の健康・うつ病や自殺について市民への情報提供と啓発活動をします。

選食力を養いよくかんで、心も身体も健やかになるよう、健全な食生活に関する指針の普及を図り、ライフステージに応じた食生活の実践を促す食育を推進します。



シニア交流センター



シルバー人材センター



健康づくりに取り組む人が増えています

### ③病気を治します

市民が身近な地域で医療サービスを受けられるよう、日頃から、かかりつけ医をもつように啓発するとともに、地域の中核的な病院と診療所との連携を図り、地域において必要な医療体制の確保を図ります。

松戸市医師会、松戸歯科医師会、松戸市薬剤師会と協力し、急病の時には、休日や夜間であっても市民が安心して医療を受けられる体制を提供します。

### ④受療環境を整備します

子育て中の家庭や経済的に困窮している家庭でも医療サービスを受けやすくするため各種医療費の助成事業を行い、受療環境の整備を図っていきます。

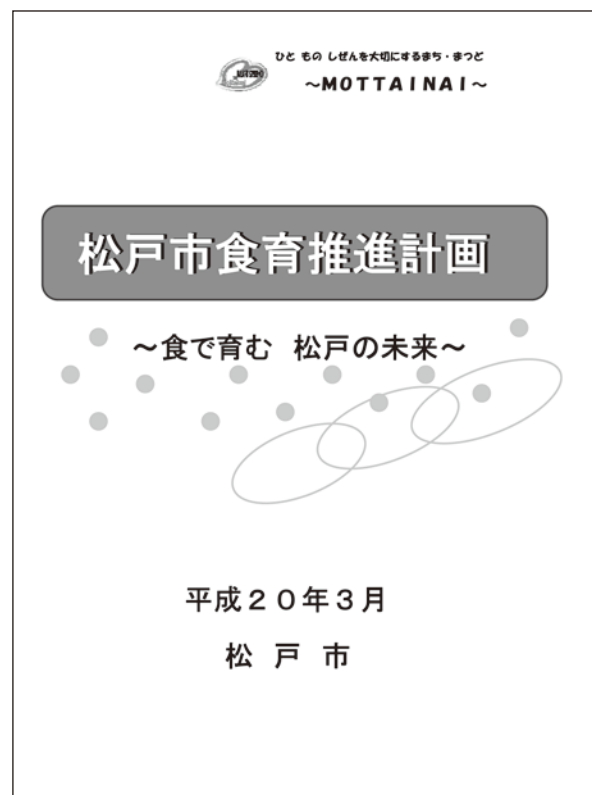
また、国民健康保険等も適正な事業運営に努めます。



衛生会館

## 関連個別計画

- 健康松戸21
- 松戸市食育推進計画
- 松戸市特定健康診査等実施計画



松戸市食育シンボルキャラクター ぱくちゃん

## 2 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします

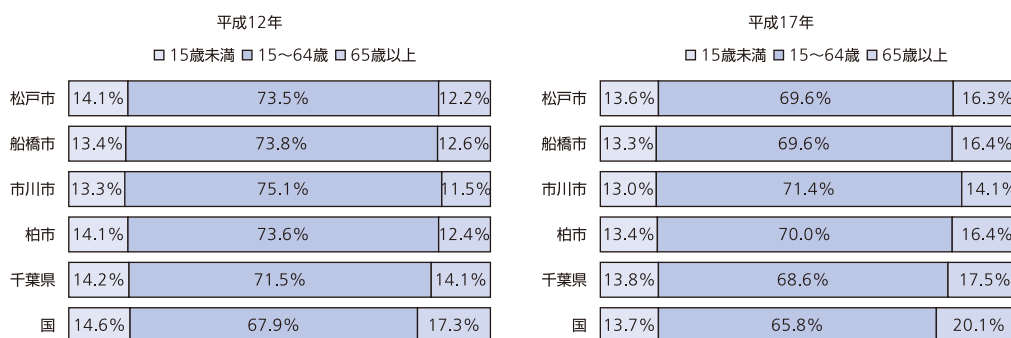
### 現況と課題

#### ●高齢者福祉と障害者福祉

平成12年に介護保険制度がスタートしましたが、その間、急速に高齢化が進んでおり、それに伴い、利用者、費用が大幅に伸びています。また、高齢化は今後もさらに進展し、取り巻く環境はより変化すると考えられます。そのような中、人口減少社会が到来し、制度の持続性を確保しつつ、限られた財源の費用対効果を考慮しながら、予防重視型の体制を確立していくことが求められています。

また、障害者手帳所持者は年々増加しており、それに伴い障害福祉サービスの利用者、費用も増加しています。そのような中、障害のある人が地域で、より安心して暮らしていける体制を確立することも求められています。

図表22-4 年齢3区分構成比の推移



出典：国勢調査 ※年齢不詳を含むため100%にならない

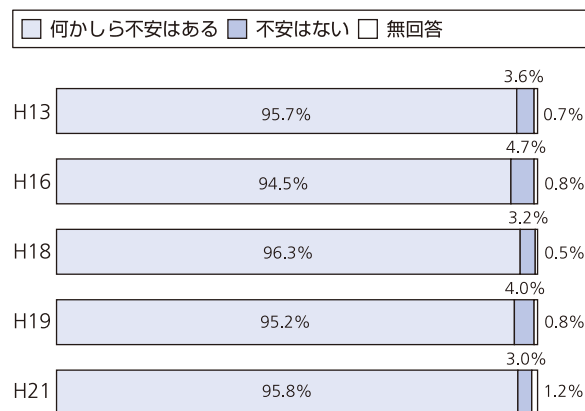
#### ●経済的な自立支援

生活保護制度については、近年、雇用情勢の悪化から急速に被保護者が増加し、被保護者の自立支援対策が緊急の課題となっています。本市では、自立支援プログラムの導入や生活保護基準の見直しが実施されています。また、生活保護の適用には至らない低所得者など、経済的に不安定な状態にある人に対する自立支援策も課題となっています。

#### ●地域ケア体制の充実

市民意識調査によると、「日常生活に対して不安を感じていない人の割合」は、平成13年度3.6%であったものが平成21年度3.0%と推移しています。今後は高齢化のさらなる進展に伴い、認知症高齢者やひとり暮らしの高齢者の急増が予測されており、孤独死など新たな課題も生まれています。このような中、住み慣れた地域で、その人らしい生活を安心して継続できるためには、介護サービスをはじめ、様々なサービスを状態の変化に応じて切れ目なく提供する地域包括ケア体制の構築が必要です。

図表22-5 日常生活に対して不安を感じていない人の割合



出典：市民意識調査

## ●斎場と墓地

松戸市斎場は、火葬炉10基を擁する火葬施設です。斎場に併設している北山市民会館は、1階部分を会葬者待合施設、2階部分を集会施設として利用されています。

白井聖地公園は、市民の強い要望のもと白井市の協力を得て、白井市平塚地区に、平成7年度に、6,808区画として整備し、平成16年度(第18回)にすべての公募が終了しています。また、千葉県を担当してきた墓地等経営許可事務を平成13年度から実施しています。平成17年には、無縁墓地の建設を実施しました。

## 松戸市の良さ・強み

- 日常生活の利便性が高く、高齢になっても暮らしやすい街です。
- 福祉サービス事業者やNPO団体、ボランティアなど福祉サービスの担い手が充実しています。
- 心身の発達に不安のある子どもたちとその家族や障害のある人への支援を行う健康福祉会館(ふれあい22)があります。

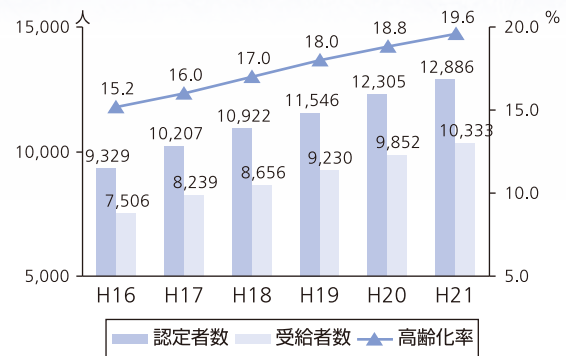
## めざしたい将来像

市民一人ひとりが、どう生きたいか、どう老いるかを考えて生活を送るようにします。そして、自助・共助・公助を高めて、個人の尊厳を保ちながら生きられ、誰もが自立した生活を安心して送れるまちを実現します。

## めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
日常生活に対して不安を感じていない人の割合	3.6%	4.0%	3.0%	<b>3%</b>
地域包括支援センター・在宅介護支援センター相談件数	—	16,827件	20,308件	<b>29,000件</b>

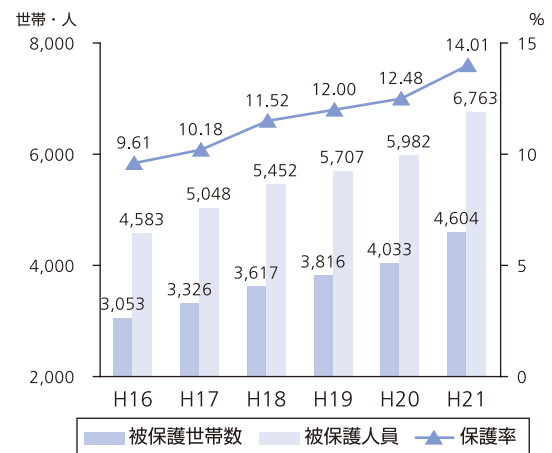
図表22-6 高齢化率と介護保険認定者数・受給者数の推移



※10月1日現在

出典：介護保険統計、介護保険事業分析報告書

図表22-7 生活保護世帯数・被保護人員の推移



出典：福祉事務所資料



## 市民と行政それぞれの役割

### ●市民の役割

- 地域のなかで、年齢、職業などが異なる様々な人々と生き方・老い方を話し合うようにします。
- 普段から積極的に人との関わりを持つようにして、助けが必要なときに、声が出せるようにしておきます。
- 周囲から助けを求められたときには、自分にできる範囲で助けられるように、普段から準備をしておくようにします。
- ひとり暮らしの人は、地域の人との関わりを持つようにします。

### ●行政の役割

- 病気や障害、高齢になったときの生き方を市民とともに考えられる場をつくるようにします。
- 地域に相談窓口を設置し、専門的なサポートが受けられるように体制を強化します。
- どのような手順でサービスをどこで受けられるかを、わかりやすく情報提供するようにします。
- 市民が憩いを感じ交流できる地域の拠点づくりを支援します。

## 施策の展開方向

### ① 必要なときに介護が受けられます

高齢者が、できる限り、要支援・要介護状態になったり、重度化したりせずに、いつまでも元気に暮らせるように、「予防重視型システム」を推進します。しかしながら、介護を必要とする人には、必要なサービスを総合的、一体的に提供できるような環境整備を行っていきます。また、日常生活に支障のある高齢者を身近な地域でサポートできるように、地域のボランティア等と連携し、市民生活の安全、安心の向上に努めます。

障害のある人も地域で自立した生活を送れるよう、必要な情報を提供しながら、必要なサービスがいつでも利用できるよう障害福祉サービスの利便性の向上に努めます。



介護保険サービスガイド



福祉ショップ



健康福祉会館(ふれあい22)

### ② 必要なときに生活の援助が受けられます

経済的に困窮し、保護が必要なときは、生活扶助、住宅扶助、教育扶助、医療扶助、介護扶助、出産扶助、生業扶助、葬祭扶助を給付し、最低限度の生活の保障を行います。また、要保護者の自立を促すため、就労の指導や援助などを行っていきます。

### ③ 必要なときに必要な人がサービスを受けられる体制を確立します

市民が地域福祉活動を積極的に安定的に続けられるよう、松戸市社会福祉協議会による地域ぐるみの福祉ネットワーク事業などを支援します。

高齢者や家族の相談を随時、受け入れられるように、地域ケアの拠点としての地域包括支援センターとそのランチ窓口<sup>\*19</sup>としての在宅介護支援センターの連携を強化し、支援体制を充実します。

高齢者や障害のある人などが権利を侵されることがないように、個々の日常生活に対する相談機能の充実を図り、自らが権利の主体であることを自覚し、自分の意思を表明できるよう支援します。また、認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分な人の権利擁護を図り、サービスの利用支援や財産管理をはじめとする、総合的な支援を充実します。

特に、ひとり暮らしの高齢者などが、安心して生活できるように、孤独死などにならない新たな支えあいを求めて、地域・NPOなどと連携を図っていきます。

### ④ 死者を弔います

市の斎場は、いざという時に安心して市民の方々が利用できるよう、施設の維持に努めます。そして、墓地についても適正な需要と供給の把握に努めます。

## 関連個別計画

- 松戸市地域福祉計画
- 第5期松戸市高齢者保健福祉計画・第4期松戸市介護保険事業計画(いきいき安心プラン3まつど)
- 松戸市障害者計画
- 松戸市障害福祉計画



松戸市社会福祉協議会



斎場



3

安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします

現況と課題

●母子の保健・医療

本市の合計特殊出生率\*20は1.29（平成20年）と全国平均である1.37を下回っており、出生数の減少も続いています。それに加えて、本市の場合は、社会移動においても、10歳未満の人口流出が大きく、少子化が急速に進展しています。

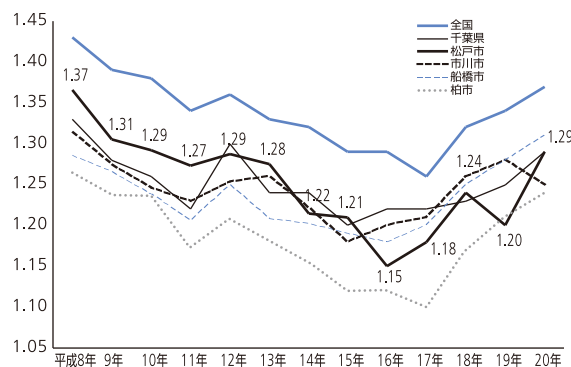
また、乳児と接する機会を持たないまま妊娠、出産・育児にのぞむ人が多いなか、価値観が多様化し、様々な情報が氾濫する現在、育児不安や虐待が社会問題になっています。平成20年3月の「健康松戸21」中間評価のための市民アンケートの結果でも、妊娠がわかったときの気持ちとしては、全体としても「うれしい気持ち」より「不安や心配」がやや強い傾向にあり、特に20代では、不安や心配を示す傾向があります。

本市では、小児医療センターの整備やさまざまな相談及び支援事業に取り組んでいますが、今後も出産や子育てに対する不安や心配を減らし、より多くの市民が安心して出産・育児ができることと実感できるような施策を充実していく必要があります。

●子どもの成長と子育て支援

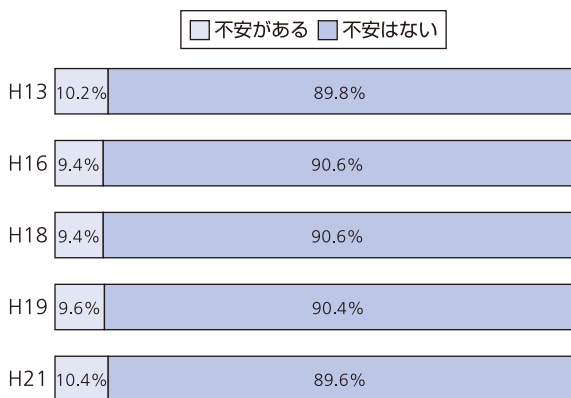
市民意識調査の結果からは、「出産や子育てに不安や心配がない人の割合」は、平成13年度89.8%、平成21年度89.6%と変わっていません。また、平成21年3月の松戸市次世代育成支援に関する調査報告書によると、親が子どもを育てている気持ちとして「自分も成長している」「子どもがいると毎日楽しい」など子育てを肯定的に捉える回答の割合が非常に高くなっており、地域の中で子育て中の親が交流したり相談ができる場も増えていることによるものと思われます。一方、「子どもが犯罪に巻き込まれる」ことを不安に思う保護者が多くなっていることや、また、市内の児童虐待件数の増加や母子・父子家庭世帯の増

図表22-8 合計特殊出生率の推移



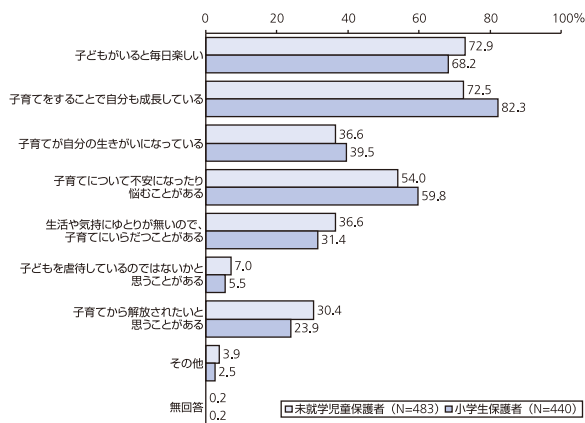
出典：千葉県健康福祉指導課資料

図表22-9 出産や子育てに不安や心配がない人の割合



出典：市民意識調査

図表22-10 子育てに対する考え方・気持ち



出典：松戸市次世代育成支援に関する調査報告書（平成21年3月）

加などもあり、子育て中の親が必要とする支援は多様化しています。

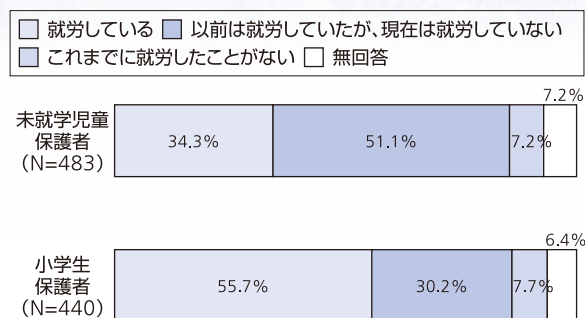
今後も、子どもの健全な成長が阻害されることなく、家庭・家族の中で健やかに子どもを育ていくことができるように、多様なニーズに合った子育て支援策を充実させていくことが重要になっています。

### ●家庭と仕事の両立支援

経済状況の変化や女性の社会参画意識の変化などにより、子どもが小さいうちから就労することを考える女性が増加しています。松戸市次世代育成支援に関する調査報告書(平成21年3月)によると、未就学児の母親の34.3%、小学生の母親の55.7%が就労しています。また未就労の母親の約8割が「子育てに余裕ができれば働きたい」と考えており、小・中・高校生の約6割の保護者が共働きとなっています。

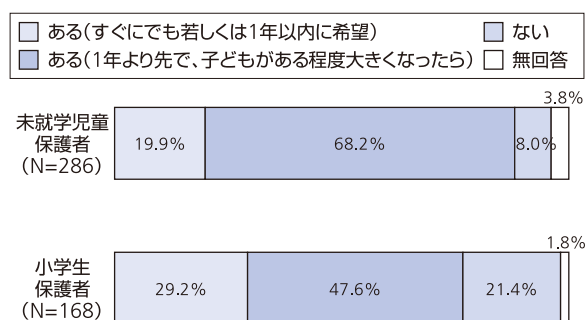
こうしたことから、子育て中の保護者が働き続けることや働き始めることを応援するための相談体制や保育サービスの充実が必要とされています。

図表22-11 母親の就労状況



出典：松戸市次世代育成支援に関する調査報告書  
(平成21年3月)

図表22-12 就労していない保護者の就労希望



出典：松戸市次世代育成支援に関する調査報告書  
(平成21年3月)

## 松戸市の良さ・強み

- 日常生活や通勤通学の利便性が高く、子育てしやすい環境です。
- 安心して出産、育児ができるような保健・医療が充実しています。
- 子育て中の親子が交流したり、相談できる場が充実しています。

## めざしたい将来像

地域ぐるみで子育てを支援し様々なサービスが選択できるようにすることによって、子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街まつどを実現します。

## めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
子育ての満足度	89.8%	90.5%	89.6%	<b>90%</b>
就労希望はあるが保育サービスが利用できないため就労していない人の割合	—	—	6.7%	<b>5%</b>
合計特殊出生率	1.28 (13年)	1.20 (19年)	1.29 (20年)	<b>1.33</b>

## 市民と行政それぞれの役割

### ●市民の役割

- 親は、子どもに愛情を持って大切に生み育てます。
- 親は、地域の活動に参加し子育てを互いに支えあうようにします。
- 家族は、協力して子育てをすることにより、自分の時間を持ち、子育てを楽しめるようにします。
- 地域の人は、子どもの豊かな成長のために、子どもの安全の見守りなど自分のできる範囲で、子どもの健やかな成長を応援します。

### ●行政の役割

- すべての子どもが自分らしい夢を持てるようになるために、市民と一緒にサポートします。
- 親が子どものために家庭と仕事の両立ができる環境を整えます。
- 子どもとのふれあいを通じて多様な人々がつながるネットワークができるよう支援します。
- 子どももお年寄りも多世代で交流できるよう支援します。
- 子育て情報をわかりやすく積極的に発信します。

## 施策の展開方向

### ① 安心して出産できるようにします

妊娠・出産・育児について、学習する場の提供と育児等についての相談相手を持てるような支援体制の整備を進めていきます。

生まれたときから全ての子どもが健やかに成長できるよう、年齢や性別、ハンディキャップの状況、それぞれの家庭に置かれた状況など、一人ひとりの子どもに必要な支援を行っていきます。

### ② 健やかに子どもを育めるようにします

子どもにとって安らげる家庭、家族であるために、家庭・家族の状況に応じた多様な支援により、子どもが育つことや子どもを生き育てるという営みを社会全体で応援していきます。そして、全ての子どもが自分らしい夢をもてるようにします。

子育ての不安を軽減し、楽しめるようにするため、親同士が交流したり、乳幼児が自由に遊べる場の充実や子育ての相談が気軽にできるチャンネルを増やしていきます。また、子育て支援にあたっては、地域の人子どもたちの活動を通じて連携していくことを支援し、子育て中の親子の支援だけでなく、子どもから広がる地域づくりを推進します。

### ③ 家庭と仕事を両立できるようにします

経済的な理由や意識の変化によって、子どもが小さいうちから就労を希望する女性が増えていることから、保育所や放課後児童クラブの利用がしやすくなるような環境整備を進めていきます。また、様々な子どもの状態に合わせた保育サービスができるようにしていきます。

なお、保護者の家庭と仕事の両立にあたっては、なによりも、子どもの成長を中心におくような相談体制や保育サービスの仕組みづくりを進めていきます。



おやこDE広場



古ヶ崎第二保育所

## 関連個別計画

○松戸市次世代育成支援行動計画(後期計画)

## 4 市立病院として高度で良質な医療を提供します

### 現況と課題

急性期対応型の国保松戸市立病院は、昭和25年の開設以来、救命救急センター・第二種感染症指定医療機関・災害拠点病院・がん拠点連携病院として指定を受けるほか、小児科・小児外科・新生児科からなる小児医療センターを設立し小児医療に力を傾注する等、東葛北部地域の中核的な病院として高度で良質な医療提供に努めてきました。

また、慢性期対応型の松戸市立福祉医療センター東松戸病院・介護老人保健施設梨香苑は、今後の高齢化社会に備えた「保健・医療・福祉」の連携した包括的医療の拠点として、平成5年に開設され、「在宅ケア支援機能」と「地域医療における補完機能」の二つの機能を持っています。

しかしながら、施設や設備の老朽化・狭隘化・耐震性の問題、医師・看護師不足等の人員体制の問題、こうした問題も含め目まぐるしく変化する医療環境から生じる医業収益の減少問題等から、これまでどおり安定した経営のもとで良質な医療を継続して提供して行くことが難しくなっています。



国保松戸市立病院

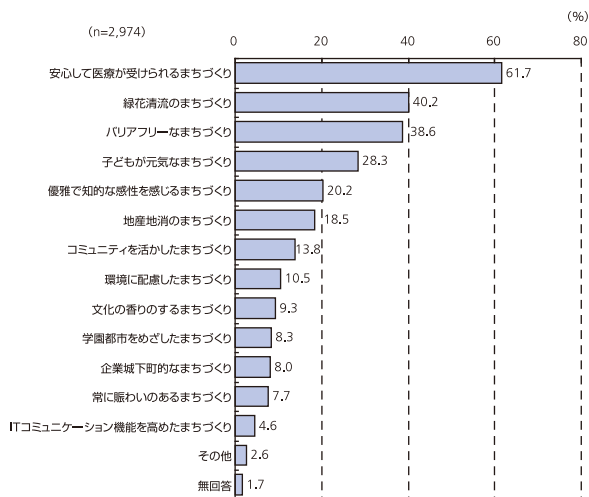


福祉医療センター東松戸病院

### 松戸市の良さ・強み

○国保松戸市立病院は、救命救急センターの指定を受けるなど、政策医療を中心に東葛地区の中核病院となっています。

図表22-13 まちづくりの方向性



出典：後期基本計画づくりのための市民ニーズ調査(21年3月)

## めざしたい将来像

松戸市立病院は、東葛北部地域の中核病院として高度で良質な医療を提供するとともに、地域の病院・診療所・福祉施設、福祉サービス、NPO・ボランティア及び行政と連携、協力し合い、患者さんのより早い社会復帰・在宅復帰を実現します。

## めざそう値

	実績値		現状値	めざそう値
	13年度	19年度	21年度	32年度
患者満足度	—	—	58.2%	<b>60%台</b>
平均在院日数	18.3日	14.6日	13.7日	<b>11.5日</b>
紹介・逆紹介率	—	—	紹介 47.7% 逆紹介 30.3%	<b>紹介 60% 逆紹介 30%</b>
一般病床利用率	88.9%	81.1%	80.7%	<b>90%</b>
年間手術件数	5,167件	4,552件	4,319件	<b>4,550件</b>
経常収支比率	101.6%	98.6%	100.5%	<b>100%</b>



## 市民と行政それぞれの役割

### ●市民の役割

- 地域でかかりつけ医を持つようにし、市立病院とかかりつけ医の役割の違いを理解するようにします。
- 入院中の患者さんの補助(一時保育、送迎)や、病院環境の改善に関わるボランティアなどができる範囲で協力するようにします。

### ●行政の役割

- 「中核病院の目的・役割・機能」と「かかりつけ医を持つことの重要性」を市民に理解していただくため、必要な情報を提供します。
- 患者やその家族の状況に合わせた退院後の暮らしを提示し、地域の医療機関・福祉施設・福祉サービス・行政等との効果的なネットワークのもと患者の早期の社会復帰や在宅復帰をめざします。
- 高度で良質な医療の提供に必要な人材と資金を確保し、安定した病院経営を実現します。
- 患者サービスの向上に取り組むNPO/ボランティア等の市民活動と協働します。

## 施策の展開方向

### ① 地域の中核的な病院としての機能を充実します

国保松戸市立病院は、施設の老朽化や狭隘化により快適性や利便性に問題が生じている上、耐震性にも劣るため、将来にわたり安定して医療を提供ができる施設・設備をできるだけ早期に整備していきます。また、整備にあたっては、現在の市立病院が地域の中で担っている救急、小児・周産期にかかわる医療の拠点病院としての基盤をさらに充実します。

### ② 患者主体の医療を推進します

患者さん本位で良質かつ安心、安全な急性期医療を提供し、すべての人から「ここに来てよかった」と思われる病院をめざします。また、そのために必要な医療機器、医療体制を改善することはもとより、プライバシーやバリアフリーにも十分に配慮した療養環境を整備し、患者さんに快適な環境でさらに質の高い医療を提供します。

### ③ 病院経営基盤の充実を図ります

平成21年3月に「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」の視点から策定した「松戸市立病院改革プラン」及び「松戸市立福祉医療センター東松戸病院改革プラン」に基づき、経営改善を推進します。

なお、経営改善の進捗状況については、継続的に検証を行い必要な改善に取り組めます。

## 関連個別計画

- 松戸市立病院改革プラン
- 松戸市立福祉医療センター東松戸病院改革プラン